

第1・5クォーター授業開講日程一覧（2025年度科目等履修生）

Q	科目名称	曜日	教員名	教室	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回							
Q1	マーケティングA<広島キャンパス・木曜開講>	木 (隔週後)	江戸	1275	4/17		5/8		5/22		6/5		/														
	マーケティングA<広島キャンパス・土曜開講>	土 (隔週後)	江戸	1275	4/12		4/26		5/17		5/31																
	経営戦略<福山市開講>	土1・2 (隔週後)	早田	福山	4/12		4/26		5/17		5/25(日)																
	マーケティングA<福山市開講>	土1・2 (隔週前)	江戸	福山	4/5		4/19		5/10		5/24																
	マーケティング演習<福山市・土曜開講>	土3・4 (隔週前)	岡田	福山	4/5		4/19		5/10		5/24																
Q5	経営戦略演習2	月	山梨	1278	4/21		4/28		5/12		5/26		/														
	ヘルスケアシステム	火(前半)	島川	1278	4/8		4/15		4/22		5/13																
	ヘルスケアシステム情報のマネジメント	火(後半)	島川	1278	5/20		5/27		6/3		6/10																
	社会イノベーション	水	露木	1278	4/9		4/16		4/23		5/7										5/14		5/21		5/28		6/4
	特別研究C(経営のリスクマネジメント)	木	七田	1278	4/10		4/17		4/24		5/8										5/15		5/22		5/29		6/5
	特別研究B(IoT社会のビジネス創造)	土1・2	土本	1278	4/5		4/12		4/19		4/26										5/10		5/17		5/24		5/31

令和7年度授業日程について

期	クォーター	授業期間
前期	第1・5	4月5日(土)~6月10日(火)
	第2・6	6月11日(水)~8月5日(火)

【授業時間】 平日	6・7限 18:30~21:30
--------------	------------------

【授業時間】 土日	1・2限 9:00~12:10 3・4限 13:00~16:10 5・6限 16:20~19:30
--------------	---------------------------------------------------------

第2・6クォーター授業開講日程一覧（2025年度科目等履修生）

Q	科目名称	曜日	教員名	教室	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回							
Q2	ビジネス統計	火	菅	1275	6/17		6/24		7/1		7/8		7/15		7/22		7/29		8/5								
	ファイナンス基礎	木 (隔週前)	高橋嶋	1275	6/12		6/26		7/10		7/24		/														
	マーケティングB	木 (隔週後)	江戸	1275	6/19		7/3		7/17		7/31																
	中四国経済	金 (隔週前)	高橋嶋	1275	6/13		6/27		7/11		7/25																
	マーケティング演習<広島キャンパス・金曜開講>	金曜 (隔週後)	岡田	1275	6/20		7/4		7/18		8/1																
	企業法務	水 (前半)	安達	1275	6/11		6/18		6/25		7/2																
	組織マネジメントとコンプライアンス	水 (後半)	安達	1275	7/9		7/16		7/23		7/30																
	経営と戦略思考	土3・4 (隔週前)	河内	1275	6/14		6/28		7/12		7/26																
	マーケティング演習<広島キャンパス・土曜開講>	土3・4 (隔週後)	岡田	1275	6/21		7/5		7/19		8/2																
	アカウンティング	土1・2	中川	1275	6/14		6/21		6/28		7/5										7/12		7/19		7/26		8/2
	経営と戦略思考<福山市開講>	日1・2 (隔週前)	河内	福山	6/15		6/29		7/13		7/27																
	マーケティング演習<福山市・日曜開講>	日1・2 (隔週後)	岡田	福山	6/22		7/6		7/20		8/3																
Q6	ヘルスケアマネジメント(介護・福祉)	火 (隔週前)	的打	1278	6/17		7/1		7/15		7/29										/						
	地域ブランド戦略	水 (隔週前)	櫻野	1278	6/11		6/25		7/9		7/23																
	デザインマネジメント	水 (隔週後)	百武	1278	6/18		7/2		7/16		7/30																
	ヘルスケアマネジメント(医療)	土1・2 (隔週前)	一戸	1278	6/14		6/28		7/12		7/26																
	特別研究F2(スタンフォード大学連携科目2)	土1・2 (隔週後)	村木	オンライン	6/21		7/5		7/19		8/2																
	医療介護のイノベーション	土3・4	遠藤	1278	6/14		6/21		6/28		7/5		7/12		7/19		7/26		8/2								

Q2 夏期	ベンチャーの経営戦略	集中 2-5	1275	古我	8/9(土) (オンライン)		8/30(土)		8/31(日)		9/14(日)	
Q6 夏期	医療流通のイノベーション	集中 1-2	1278	遠藤	8/9(土)	8/16(土)	8/23(土)	8/30(土)	9/6(土)	9/7(日)	9/13(土)	9/14(日)
	特別研究D(マネジメントアカウンティング)	集中 3-4	1278	小川	8/9	8/16	8/23	8/30				
	アジアの環境ビジネス創造	集中	1278	磯貝	8/2(土)3-4限		8/10(日)1-4限		8/24(日)3-4限			
	特別研究E(ファイナンス演習)	集中 金	1278	七田	8/29	9/5	9/12	9/19				

## 目次

アカウンティング	1
マーケティングA	2
マーケティング演習	5
中四国経済	9
ファイナンス基礎	10
ビジネス統計	11
ベンチャーの経営戦略	12
企業法務	13
組織マネジメントとコンプライアンス	14
経営戦略	15
経営と戦略思考	16
経営戦略演習2	18
マーケティングB	19
アジアの環境ビジネス創造	20
地域ブランド戦略	21
デザインマネジメント	22
ヘルスケアシステム	23
ヘルスケア情報のマネジメント	24
ヘルスケアマネジメント（介護・福祉）	26
ヘルスケアマネジメント（医療）	27
医療介護のイノベーション	28
医療流通のイノベーション	30
社会イノベーション	32
特別研究B（IoT社会のビジネス創造）	33
特別研究C（経営のリスクマネジメント）	34
特別研究D（マネジメントアカウンティング）	35
特別研究E（ファイナンス演習）	36
特別研究F 2（スタンフォード大学連携科目2）	37

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
アカウンティング					
担当教員					
中川 隆喜					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	2	基礎	第2クォーター (6月～8月)	土曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>企業を取り巻く環境や市場が著しく変化する現代社会において、企業が存続・成長していくためには、企業の経営成績および財政状態の正確な分析と迅速な意思決定が必要となります。</p> <p>本講義においては、会計の専門的な知識を身に付けるだけでなく、経営者やプロジェクトマネージャーとして、経営戦略の策定や意思決定を行う際に必要とされる最低限のアカウンティング能力を身に付ける事も目的とします。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>授業は電卓を利用する機会があります(※シンプルな機能の電卓で構いません)。</p> <p>授業中、随所で自分の意見を述べてもらう機会を作ります。</p> <p>いつ発言を求められても良いように、常に考えながら授業に臨んで下さい。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング A<広島キャンパス・木曜開講>					
担当教員					
江戸					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第1クォーター 隔週後半 (4月～6月)	木曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。講義 で扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセス を体系的に習得する。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>マーケティング入門を受講されることが望ましい。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング A<広島キャンパス・土曜開講>					
担当教員					
江戸					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第1クォーター 隔週後半 (4月～6月)	土曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。講義 で扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセス を体系的に習得する。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>マーケティング入門を受講されることが望ましい。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング A<福山市開講>					
担当教員					
江戸					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第1クォーター 隔週前半 (4月～6月)	土曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。講義 で扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセス を体系的に習得する。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>マーケティング入門を受講されることが望ましい。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング演習<広島キャンパス・金曜開講>					
担当教員					
岡田 浩一					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 隔週後半 (6月~8月)	金曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。</p> <p>そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化などマーケティングをテーマとした議論やディスカッションを行う。</p> <p>履修者は、数名のチームに分かれ、一つの事業を選んでクラスの間の時間も含めてチームごとのディスカッション、企画、提案準備に参加することが必須である。ここで扱うケースを通し自分で考え、チームの経験を共有しながらマーケティングの基本的プロセスを体系的に習得し、マーケティング的なものの見方、考え方を身につけることが期待される。</p> <p>また、演習科目であるがクラスの半分はレクチャ中心の講師とのディスカッションに充てられる。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマをテキストとして挙げておくが、これに限らず取り上げるケースに必要な資料には積極的に触れることが推奨される。</p> <p>また、上記以外の参考文献、参考資料をクラスで紹介することもある。</p>					
【履修条件】					
<p>すべてのクラスは対面で行う。</p> <p>「マーケティング入門」「マーケティング A」を履修することが望ましい。マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。</p> <p>クラス、クラス外のチームごとの活動には積極的な姿勢で臨むこと。</p>					
【注意事項】					
なし					



令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング演習<広島キャンパス・土曜開講>					
担当教員					
岡田 浩一					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 隔週後半 (6月~8月)	土曜	3・4限(13:00-16:10)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。</p> <p>そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化などマーケティングをテーマとした議論やディスカッションを行う。</p> <p>履修者は、数名のチームに分かれ、一つの事業を選んでクラスの間の時間も含めてチームごとのディスカッション、企画、提案準備に参加することが必須である。ここで扱うケースを通し自分で考え、チームの経験を共有しながらマーケティングの基本的プロセスを体系的に習得し、マーケティング的なものの見方、考え方を身につけることが期待される。</p> <p>また、演習科目であるがクラスの半分はレクチャ中心の講師とのディスカッションに充てられる。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマをテキストとして挙げておくが、これに限らず取り上げるケースに必要な資料には積極的に触れることが推奨される。</p> <p>また、上記以外の参考文献、参考資料をクラスで紹介することもある。</p>					
【履修条件】					
<p>すべてのクラスは対面で行う。</p> <p>「マーケティング入門」「マーケティング A」を履修することが望ましい。マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。</p> <p>クラス、クラス外のチームごとの活動には積極的な姿勢で臨むこと。</p>					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング演習<福山市・土曜開講>					
担当教員					
岡田 浩一					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第1クォーター 隔週前半 (4月~6月)	土曜	3・4限(13:00-16:10)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。</p> <p>そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化などマーケティングをテーマとした議論やディスカッションを行う。</p> <p>履修者は、数名のチームに分かれ、一つの事業を選んでクラスの中の時間も含めてチームごとのディスカッション、企画、提案準備に参加することが必須である。ここで扱うケースを通し自分で考え、チームの経験を共有しながらマーケティングの基本的プロセスを体系的に習得し、マーケティング的なものの見方、考え方を身につけることが期待される。</p> <p>また、演習科目であるがクラスの半分はレクチャ中心の講師とのディスカッションに充てられる。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマをテキストとして挙げておくが、これに限らず取り上げるケースに必要な資料には積極的に触れることが推奨される。</p> <p>また、上記以外の参考文献、参考資料をクラスで紹介することもある。</p>					
【履修条件】					
<p>すべてのクラスは対面で行う。</p> <p>「マーケティング入門」「マーケティング A」を履修することが望ましい。マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。</p> <p>クラス、クラス外のチームごとの活動には積極的な姿勢で臨むこと。</p>					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング演習<福山市・日曜開講>					
担当教員					
岡田 浩一					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 隔週後半 (6月~8月)	日曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。</p> <p>そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化などマーケティングをテーマとした議論やディスカッションを行う。</p> <p>履修者は、数名のチームに分かれ、一つの事業を選んでクラスの間の時間も含めてチームごとのディスカッション、企画、提案準備に参加することが必須である。ここで扱うケースを通し自分で考え、チームの経験を共有しながらマーケティングの基本的プロセスを体系的に習得し、マーケティング的なものの見方、考え方を身につけることが期待される。</p> <p>また、演習科目であるがクラスの半分はレクチャ中心の講師とのディスカッションに充てられる。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマをテキストとして挙げておくが、これに限らず取り上げるケースに必要な資料には積極的に触れることが推奨される。</p> <p>また、上記以外の参考文献、参考資料をクラスで紹介することもある。</p>					
【履修条件】					
<p>すべてのクラスは対面で行う。</p> <p>「マーケティング入門」「マーケティング A」を履修することが望ましい。マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。</p> <p>クラス、クラス外のチームごとの活動には積極的な姿勢で臨むこと。</p>					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
中四国経済					
担当教員					
高橋 龍二					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 隔週前半 (6月～8月)	金曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>第1・2回目:中四国圏域における経済発展の歴史や国土交通省の国土計画に基づく中四国エリアのインフラ、経済スケール、圏域の現状と課題などをマクロ的視点で包括的に理解する。</p> <p>第3・4回目:中四国圏域内の主要都市の経済圏域(都市圏、商圏、交流人口など)と、相対的な位置付け(都市力評価、地域力評価)の評価と、各自治体の掲げる都市圏構想等について、都市形成の基本理論(都市経済学、統計学など)に基づきミクロ的視点で理解する。</p> <p>第5・6回目:産業連関計算、地域経済循環分析(RESAS)、海外事例(例えばドイツなど)も参考に、地域の経済発展をプランニングする上で役に立つ手法を学び、実習する。</p> <p>※ここで学んだ手法等活用し、テーマ設定を行い、4日目の課題(自ら考える経済発展方策)を課す。</p> <p>第7・8回目:将来に向けた課題解決として、特に広島県の物流課題や産業構造の現状を踏まえ、方策を考える。なお、学生自らが課題解決に向けた方策の提案(協同提案によるプレゼンテーションも可)を行い、試験とする。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>何かを学ぶというより、ともに考えるという姿勢で積極的に参加してください。</p> <p>毎回、事前に読んでおいて欲しい文献等紹介と、講義後の簡単なレポート(500字程度)を課す予定です。広範囲な科目でもテーマを絞り、各授業の冒頭で学生個々の課題レポートの紹介や、それに基づく意見交換の時間を設けたいと思います。</p> <p>最終課題は学生個々のプレゼンだけではなく、協同提案を認めるなど工夫したいと思います。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
ファイナンス基礎					
担当教員					
高橋 陽二					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 隔週前 (6月～8月)	木曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>ファイナンスとは、金融市場に関わるあらゆる人々に対して意思決定を支援するために構築されてきた。一般的な MBA では、主としてコーポレートファイナンス(該当科目「ファイナンス A」「ファイナンス B」)を扱うが、ファイナンスに共通する基本的な知識及び考え方がある。</p> <p>「ファイナンス基礎」では、これまでファイナンスを勉強したことがない人やファイナンスを最初から学び直したい人等の初学者を対象に、上記したファイナンスに共通する基本的な知識及び考え方をしっかり丁寧に勉強する。ファイナンスの基礎を固めることを重視する。そのため、中間試験及び期末試験に対する成績評価の割合が大きい。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>初学者に向けていくつか参考文献を紹介する。</p> <p>新書であれば、石野雄一『ざっくり分かるファイナンス』(光文社、2007年)、森生明『会社の値段』(筑摩書房、2006年)が、昔からよく読まれている。著書では、新倉祐介『ファイナンス思考』(ダイヤモンド社、2018年)、同『ゼロからわかるファイナンス思考』(講談社、2022年)、石野雄一『超ざっくり分かるファイナンス』(光文社、2022年)はよく出来ている。担当教員が関わった著書である『知識の基盤になるファイナンス』(共著、中央経済社、2018年)も参考になるだろう。なお、授業の内容は、履修者の関心や理解度に応じて変更する可能性がある。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
<p>本科目には履修条件はありませんが、「ファイナンス基礎」と「ファイナンス A」(後期開講予定)の内容の理解が「ファイナンス B」(後期開講予定)の履修条件となるため、履修を検討している方は「ファイナンス基礎」を先に履修ください。</p>					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
ビジネス統計					
担当教員					
菅 由紀子					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	2	基礎	第2クォーター (6~8月)	火曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>ビジネスパーソンが実際に対面する課題をベースに、統計に必要な技術、考え方を学びます。</p> <p>統計のベースを学びながら、データ処理の方法やレポートの作成方法、ビジネス課題に多く見受けられる課題を事例に学んで行きます。授業においては、企業の経営課題やプロジェクトの題材を用いてデータを解析し、企業が行うべき施策を見出すことをタームの中で解析するプロジェクト型の学習を行います。データ処理には Excel もしくは Python(Google Colabratory を用いる想定)でのデータ処理・集計、分析を想定しています。Excel については四則演算や基本的な集計関数が実行できること、Python に関しては Google のアカウントを保持していると望ましいです。シラバス作成時点では、解析対象のデータは受講生の方々と相談しながら企業の意思決定の場面において活用されるデータセットを検討する予定です。また、令和7年度はデータ処理・解析の実行とレポート作成に際してグループで行うことを想定しておりますが、これも受講生の皆さんの希望を伺って決定します。変更がある場合は変更時点で受講生の皆さんにお知らせします。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>講師作成のテキストは、各回実施後に配布します。また、授業実施の期間中にデータサイエンスの領域や統計に関する大きなトピックがあった際には授業の構成を見直します。データ解析・レポートの作成には授業の受講時間以外の対応時間がかなり必要になることを理解のうえで受講してください。</p> <p>総務省統計局主催「データサイエンス・オンライン講座 社会人のためのデータサイエンス演習」とは重なる部分が多くあります。動画視聴・受講を推奨します。</p>					
【履修条件】					
<p>ビジネス統計もしくはマーケティングリサーチの履修実績があれば望ましいですが、そうでなくても構いません。</p>					
【注意事項】					
<p>シラバスに記載の Excel の操作等を行える前提での履修をお願いします。</p>					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
ベンチャーの経営戦略					
担当教員					
古我 知史					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	2	基礎	夏季集中 (8月～9月) ※別紙参照	集中	※別紙参照
授業の概要					
<p>まずは、そもそもの現代社会の資本主義経済での成長とは何かを一緒に考えることから始め、ベンチャーのライフサイクルやベンチャーの実際について知識として学ぶ。次に、未来の事業機会をつかむための鍵となる勃興するベンチャー(ユニコーン含む)の事例研究や第四次産業革命と背景となるテクノロジーの解釈や自主探索研究を行い、これらの活動をもとにグループ分けしたワークショップで疑似的起業活動に入る。ワークショップでは着眼セッションを実際のベンチャーコミュニティでのアプローチ手法を利用して取り組み、仮説を発散させ、論理的に収れんしつつストーリープロトタイピングを通して検証することで、一つの有望な事業仮説とビジネスモデルに落とし込む。ベンチャーの経営戦略において基本となる戦略やマーケティング、ビジネスモデル、ファイナンスのエッセンスは講義と自習を通して主体的に会得する。また、現在進行形のベンチャーコミュニティで活躍するアントレプレナーやベンチャーキャピタリストなどのゲストスピーカーとの交流を通じて生の現場からのインスピレーションと示唆を得る。これら全体がシナジーをもって融合することで、アントレプレナーシップと起業を左脳と右脳と心とともに体得する。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>自ら起業を目指す者、ベンチャー企業の執行役員志向の者、家業の継承発展を目指す者、組織の中にあって革新的な事業開発を目指す者を主に対象とする。未知の未来の新しいビジネスの可能性を、楽しみながら本質的に考え抜き、仲間と共に議論を尽くしながらとことん追求する、意志を持った好奇心に溢れる人財の参画を望む。パソコンやスマホはワークショップ中に利用するので必携とする。</p> <p>講義はインタラクティブセッション、自律的・主体的に編成するチームによる疑似的スタートアップのワークショップを、受講生の内にあるアントレプレナーシップに火をつけ、コミットメントを引き出し、実行する。最新のベンチャーコミュニティの動向や事例の検証や洞察を深めたい。毎年度、一人或いは一組以上の起業家・スタートアップの出現を強く期待し、伴走指導する所存である。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
企業法務					
担当教員					
安達 巧					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 前半 (6月～8月)	水曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>会社(企業)は会社法に基づいて設立され、企業活動は「法律行為の集合体」であるともいえる。ルールを知らずにスポーツやゲームをすると冷笑されるように、法律を知らずにビジネスを行ってしまうと、事業の継続や企業の存続自体が危ぶまれる事態にも陥りかねない。この授業は、ビジネスリーダーとしてビジネスを進めるに際して必須となる法的思考力や法的知識の獲得を目標とする。担当教員による一方通行の講義ではなく、受講生全員によるディスカッションも積極的に取り入れる。なお、2コマ(1日)はゲストスピーカー(弁護士を予定)を招き、企業法務に関する最新の実務等についても学ぶ。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>①HBMS は専門職大学院であり、大学の学部やカルチャーセンターではない。したがって、当たり前のことだが、この授業は専門職「大学院」の単位認定に相応しい内容及び水準で進む。</p> <p>②真のビジネスリーダーは、経営実務では法務、税務、ファイナンス及び会計が特に重要な点を理解している。</p> <p>③HBMS で取得できる学位は「経営修士(専門職)」であって「MBA(経営修士)」などではないことを理解し説明できるようになる。</p>					
【履修条件】					
会社法の基礎的知識を有していること。					
【注意事項】					
なし					



令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
組織マネジメントとコンプライアンス					
担当教員					
安達 巧					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 後半 (6月～8月)	水曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>コンプライアンス経営は単なる「法令遵守」ととどまらず、倫理を含む社会規範等も遵守する経営である。近年、組織マネジメントにおいてはコンプライアンスを求める動きが進み、組織における適正な体制、組織作り及び整備を行うこと等が求められている。具体的には、組織秩序を守るための組織内ルール(社内規程等)を定める、コンプライアンスに関する研修や教育を行う、内部通報窓口を設置する等、多岐に及ぶ。加えて、ルールや価値観の変更が、従来であれば無関係と思われた部署にまで影響を与え始めている。この授業では、労働法にも触れながら組織マネジメントとコンプライアンスについて学ぶ。担当教員による一方通行の講義ではなく、受講生全員によるディスカッションも積極的に取り入れる。なお、1コマはゲストスピーカー(組織のトップを予定)を招き、組織マネジメントとコンプライアンスに関する最新の実務等についても学ぶ。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>①「企業法務」を履修済みであることが望ましい。                  ②この授業は専門職「大学院」の単位認定に相応しい内容及び水準で進む。                  ③真のビジネスリーダーとして、また、「経営修士(専門職)」学位取得者として相応しい素養を身に付けたいとの意思を持つ学生の受講を歓迎する。</p>					
【履修条件】					
「企業法務」を履修済みであること。					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
経営戦略<福山市開講>					
担当教員					
早田 吉伸					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第1クォーター 隔週後半 (4月~6月)	土曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>本授業は、経営戦略の基礎的な理論やフレームワークを習得するとともに、グループワークを通じて、その内容を実務の中で使えるよう学習する。講義は、レクチャーとグループワークを交互に行い、知識習得にとどまらず、使えるスキルにしていくことを目指す。受講者自らの職務経験やそこから生じる問題意識をもとにした対話をベースに講義を行い、経営戦略に対する理解を深めていく。全体の流れとしては、まずは、基本的な経営戦略の意義と基本概念、事業戦略、全社戦略について、経営理論やフレームワークをおさえながら学習する。次に、今日的な課題である戦略マネジメント、企業変革、ビジネスモデルについて、最新の事例なども交えて学習する。最後に、受講者ひとりひとりの経営課題を取り上げ、これまでの学習内容をもとに、解決策を立案しプレゼンテーションする。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>受講者自らの職務経験を振り返り、これまでの経験を生かした活発な議論を期待します。                  ※授業の中で、実務家講師による具体的な事例の紹介についても試みる予定。そのため、シラバス記載の内容が変更になる可能性がある。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
経営と戦略思考<広島キャンパス開講>					
担当教員					
河内 誉帆					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 隔週前半 (6月~8月)	土曜	3・4限(13:00-16:10)
授業の概要					
<p>本科目は、グローバルや日本企業における経営戦略の実践について、講師の実務経験やケーススタディに基づき、資本市場や各ステークホルダーとの関係性を踏まえて、企業価値の持続的な向上をめざすうえで実際に使える戦略策定メソッドや経営戦略を策定するうえでの要諦を講義形式中心に学習していく</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>受講生にも積極的に議論に参加していただき、戦略理論だけではなく、インタラクティブな議論を通じて受講生の実践的な理解度を高めて頂きたい。特別講師やゲストスピーカーを招聘する可能性もあるため、シラバスの順番通りにならない可能性や各回のテーマが変更される可能性がある</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
経営と戦略思考<福山市開講>					
担当教員					
河内 誉帆					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	基礎	第2クォーター 隔週前半 (6月~8月)	日曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>本科目は、グローバルや日本企業における経営戦略の実践について、講師の実務経験やケーススタディに基づき、資本市場や各ステークホルダーとの関係性を踏まえて、企業価値の持続的な向上をめざすうえで実際に使える戦略策定メソッドや経営戦略を策定するうえでの要諦を講義形式中心に学習していく</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>受講生にも積極的に議論に参加していただき、戦略理論だけではなく、インタラクティブな議論を通じて受講生の実践的な理解度を高めて頂きたい。特別講師やゲストスピーカーを招聘する可能性もあるため、シラバスの順番通りにならない可能性や各回のテーマが変更される可能性がある</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
経営戦略演習2					
担当教員					
山梨 広一					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	基礎	第5クォーター (4月～6月)	月曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>実際に存在する企業を選び、その企業の経営戦略をグループで検討、立案することを通じて、これまでに学んできた様々なことを融合させ、自分たちで経営戦略を考え、作成してみることを通じて、経営と経営戦略に関する理解を多面化するとともに、戦略検討・立案の能力獲得の基礎的なステップとなることを目指す。こうした演習をサポートするために、経営と経営戦略の要諦を基礎と座学を超えた実践例を組み合わせ提供するとともに、優秀な経営者をゲスト講師として招き、その人たちの経験、思い、思考を学ぶことで、論理や手法を超えた経営戦略の深みやツボを学んで頂く。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
なし					
【履修条件】					
『経営戦略』、『経営と戦略思考』、『経営戦略演習1』を履修済みであること。					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
マーケティング B					
担当教員					
江戸 克栄					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
1	1	応用	第2クォーター 隔週後半 (6月～8月)	木曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。マーケティングの基本は消費者や市場を理解することである。そのため、講義では、消費者行動の基本(情報探索行動、関与、ライフスタイル、代替案評価)を理論的フレームワークを学んだ上で、市場ニーズや市場需要を予測するための具体的な方法や考え方について学んでいくことを目的としている。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>「マーケティング A」を履修すること。マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>					
【履修条件】					
<p>「マーケティング A」の履修が必要。</p>					
【注意事項】					
<p>なし</p>					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
アジアの環境ビジネス創造					
担当教員					
磯貝日月					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	夏季集中 (8月～9月) ※別紙参照	集中	※別紙参照
授業の概要					
<p>アジア諸国の範囲は広く、国・地域によって成長速度は異なるものの先進国を上回る成長率の高さに注目が集まっている。各国・地域が持続可能な発展を目指し、環境ビジネスの技術とマネジメントによりそれぞれの抱える課題をどのように克服しているのか、さらには世界経済を牽引する潜在性について具体的な事例をもとに実践を学び、各動向を分析する。また、国や地域によって民族、文化、社会、法、慣習、制度、宗教、気候、風土などは異なり、それぞれの差異に目を向けるべく人類学の視座やフィールドワークの方法論について理解を深める。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り扱うアジア各国のケーススタディをもとに、「社会問題の分析」「解決策の立案」「解決策の影響評価」という一連のプロセスを事例ごとに分析する。そのため普段から海外ビジネスにおける日本企業や国際協力団体の存在意義や動向、プロダクト及びサービスの現状について関心を持って調べ、議論に参加することを期待する。</li> <li>・お呼びする専門家・実務家のスケジュール調整の結果、取り扱う国やテーマが変更、回が前後する可能性がある。また、アンケートやワークショップの結果などから予定を変更する可能性がある。変更については初回の授業で説明する。</li> <li>・授業はデュアル方式を予定しているが、ゲストスピーカーと海外から繋いだり、県外からの移動の都合によってはオンラインのみの実施の可能性がある。各回の実施方式について初回の授業で説明する。</li> </ul>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
地域ブランド戦略					
担当教員					
樫野 孝人					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	第6クォーター 隔週前半 (6月～8月)	水曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>持続可能な社会を形成するために、地域活性化やまちづくりにおいて地域ブランドが不可欠な要素になってきている。また地域ブランドが確立された地域での起業は事業環境的に発射台が高く、スタートダッシュがしやすい状況である。</p> <p>本授業では、地域課題を捉え、官民が連携し、地域産業や地域製品のバリューアップを創造する考え方やアプローチ方法を実例を通して理解を深めることを目的とする。国内の地域ブランド戦略のケーススタディを通して、実践的に学びながら、ビジネスリーダーに求められる戦略立案力を身につける。</p> <p>授業の最後には、地域商品やサービスの地域ブランド戦略を立案し、プレゼンテーションを行う。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。</p> <p>「デザインマネジメント」を併せて受講するのが望ましい。</p> <p>授業や課題でインターネットを利用した情報検索や、デザイン制作・動画制作をすることもある。可能であればノートコンピュータを持参すること。タブレットやスマートフォンの利用も認めるが、作業効率の観点からノートコンピュータの利用をお勧めする。</p> <p>※ゲスト講師調整の都合により、授業計画に記載した講義内容の順番とゲスト講義日程は変更となる可能性がある。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					



令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
デザインマネジメント					
担当教員					
百武 ひろ子					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	第6クォーター 隔週後半 (6月～8月)	水曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>感性的価値の重視を背景に、デザインへの関心は高まりつつある。デザインに対する関心は、モノの外観の美しさといった、狭義のデザインにとどまらず、サービスのデザイン、関係性のデザイン、システムデザイン、プロセスデザインなど多岐にわたっている。矛盾する要素、異なるニーズを統合し、目にみえるかたちで問題解決を行うというデザインの基本機能は、ビジネスにも積極的に導入されている。</p> <p>本授業では、現代社会に求められている「デザイン」の機能とビジネスにおけるデザインマネジメントについて実例を通して理解を深め、ビジネスリーダーに求められるデザインマネジメント力を身につけることを目的としている。授業の最後には、デザインマネジメントのプレゼンテーションを行う。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>デザインに関する感度を高めて、授業に臨むことを求める。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
ヘルスケアシステム					
担当教員					
島川 龍載					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	第5クォーター 前半 (4月～6月)	火曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>わが国の社会保障給付費は 130 兆円を超え、そのうち国民医療費と介護給付費を合わせるとおよそ 60 兆円となり、今後もしばらく増加が予想される。このような背景のもと、持続可能な社会保障制度を構築するためには、国や地方自治体による高度なマネジメントが求められる。</p> <p>本講義では、限られたリソース(ヒト、モノ、カネ、情報)を最大限に活用するための理論とその実践を深く学ぶことを目的とする。</p> <p>講義では、ヘルスケア分野の制度や政策を包括的に解説し、社会保障制度がどのように構築され、運営されているかを具体的に掘り下げる。国民皆保険制度や介護保険制度といった基幹的な制度の仕組みや課題を体系的に理解し、政策形成や運営における課題を明確にする。さらに、ヘルスケア産業が直面する経営課題についての知識を深めるとともに、グローバル化や技術革新の中で変化する社会保障のあり方を検討する。</p> <p>本講義では、制度や政策を理解するだけでなく、それらがヘルスケアビジネスや地域医療に与える影響について考察することで、現場での課題解決に活かせる知見を得ることを目指す。双方向の議論や事例分析を通じて、受講者が主体的に考え、自らの専門分野で活用できる力を養う。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
ヘルスケア分野の経営に関する専門的な知識の理解を深める講義であるが、これらの事業に直接携わっていない者であっても、テキストや参考文献の事前学習を行うことで十分に理解可能な構成としている。					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名						
ヘルスケア情報のマネジメント						
担当教員						
島川 龍載						
配当年次	単位数	科目区分	授業方法	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	デュアル	第5クォーター 後半 (4月～6月)	火曜	6・7限
授業の概要						
<p>日本のヘルスケア産業は、医療・介護分野を中心に国内最大級の市場規模を有しており、健康増進や予防医療を含む新たな市場も急速に成長している。しかし、OECD 加盟国と比較すると、日本ではヘルスケア分野におけるデジタル化や情報技術(ICT)の活用、そしてそれを支える制度設計が遅れているという課題がある。</p> <p>これまでの日本のヘルスケア分野においては、主に医療を中心に ICT が活用されてきたが、今後は健康、医療、介護をシームレスにつなぐサービスの連携が必要である。そのためには、相互運用性(Interoperability)の向上が重要であり、国、自治体、民間企業が連携した取り組みが進められている。一方で、ICT サービスへの投資対効果の評価が十分に進んでおらず、効率的な技術導入や運用が課題となっている。</p> <p>こうした背景から、人口減少と超高齢社会に対応するためには、ヘルスケアサービスの質と生産性の向上が急務である。「情報」や「情報技術」を経営資源として活用し、それらを効果的にマネジメントする手法の構築が求められている。</p> <p>本講義では、ヘルスケア分野における情報技術の進展がもたらす経営課題を理解し、ビジネスモデルや制度・政策との関連性からヘルスケア産業の将来を考察することを目的とする。また、最新の理論と事例を活用し、それらを各受講者のビジネスや実務に応用する力を養成する。講義は講師による知識提供に加え、ディスカッションを通じた双方向の対話を重視し、実践的で応用力のある学びを提供する。</p>						
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】						
ヘルスケア分野の経営情報に関する専門的な知識の理解を深める講義であるが、これらの事業に直接携わっていない者であっても、テキストや参考文献の事前学習を行うことで十分に理解可能な構成としている。						
【履修条件】						
なし						

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

【注意事項】
なし

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
ヘルスケアマネジメント(介護・福祉)					
担当教員					
的打 英明					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	第6クォーター 隔週前半 (6月～8月)	火曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>本講義では、介護保険報酬を収入の基軸とした介護、福祉事業経営の実際を学び、事業経営、現場運営の両側面のマネジメント方法を理解する。財務諸表等を見ながら、経営課題を分析し、介護事業独特の経営分析手法の取り扱いを説明する。</p> <p>また、近年、厚生労働省から求められている、介護、福祉現場の生産性を向上させる手法を説明する。実際の介護福祉現場の課題の分析方法、解決手法を実際の事例を交えて紹介する。</p> <p>介護、福祉事業経営について講義した後、演習では、事前学習として調べてきた類似事例を含め、経営課題を分析し、経営課題に適した解決手法や、課題解決のための効果的な手法について、グループに分かれ討議する。</p> <p>介護、福祉業態の類別を行い、業態ごとの強み、弱みを把握し、親和性、独自性を活かした創造的な介護福祉事業の経営モデルを説明できる事を目指す。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>介護福祉事業の経営に関心があり、経営課題の分析や課題解決、介護福祉事業運営の改善方法に関心を持っていることが望ましい。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
ヘルスケアマネジメント(医療)					
担当教員					
一戸 和成					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	第6クォーター 隔週前半 (6月~8月)	土曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>超高齢化、超少子化社会を迎え、医療に関する国民の期待は大きいものの、現実の医療制度、医療提供体制は、その期待に応えられるものとなっていない。</p> <p>また、近年の医療政策、医療保険制度の改革が毎年のように行われているものの、時代の変化に制度変更が追い付いていない。</p> <p>こうした中、医療機関、特に病院の経営環境は悪化の一途をたどっており、公立病院、公的病院においては、多額の赤字を計上するなど、その存続すらままならない状況となっている。</p> <p>本講義においては、現在の医療政策、医療保険制度、診療報酬制度・改定を概説するとともに、これまで教員が経験した、公立病院・民間企業における介護施設(有料老人ホーム)・民間病院における経営改善の実践を踏まえて、公立病院特有の課題や制度、実際の経営改善の取組みについて説明する。</p> <p>講義とともに、さまざまな議論を通して医療機関の経営改善にも寄与しつつ、国民・患者のニーズにあった医療機関のあり方・経営方針について理解を深めることを目指す。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>医療機関(介護施設も含む)の経営に関心があり、取り巻く医療政策、医療保険制度に興味を持っていることが望ましい。</p>					
【履修条件】					
<p>医療保険制度(お金の流れなど)について基本的な知識があった方が理解しやすいと思います。</p>					
【注意事項】					
<p>学術的講義でなく現場での経験に基づく私見を交えた講義であることを前提にしてください。</p>					

科目名					
医療介護のイノベーション					
担当教員					
遠藤 邦夫					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	2	専門	第6クォーター (6月～8月)	土曜	3・4限(13:00-16:10)
授業の概要					
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大によってわが国の医療制度の大きな課題が浮かび上がるようになった。それまでは国民皆保険制度を維持するために医療従事者に多大な負担を強いてきたが、そのことがコロナ禍の医療提供体制を混乱させることになったからだ。病床数の多さだけでなく、役割分担や集約化できない医療従事者数や制度の課題が新型コロナウイルス感染症の急速な拡大によって浮かび上がるようになった。</p> <p>また、コロナ禍以前から課題となっていた公立病院や公的病院の統廃合についても思うように進展していない。政府としては、待ったなしの人口減少・高齢社会においてその対応策を急がなければ、わが国の医療提供体制がこれまで以上に歪みを生じさせることとなり、超高齢社会を乗り切ることが困難になる。</p> <p>このような状況下で、わが国では地域医療構想、医師の働き方改革、医師の地域偏在化の是正が同時並行で推進されている。だが、いずれの課題も容易に解決策を見出すことができない。このままでは、暫定的な対応を繰り返すことになる。</p> <p>一方、わが国において政府の後押しを背景にして医薬分業が急速に進展してきた。最近では、大学病院や公立病院など地域の基幹病院の敷地内薬局が急増し、ドラッグストアなども調剤事業を拡大し、競争環境も変化している。</p> <p>しかし、医療関係者だけではなく国民からも現在の医薬分業のあり方について疑問が投げかけられ、調剤報酬改定などで急成長を続けてきた調剤薬局は、これまでのあり方の見直しを迫られることになった。それにもかかわらず薬局数の増加傾向は続いている。早急にそのあり方の見直しを行わなければ、薬局や薬局薬剤師に対する国民の厳しい眼を改善することができない。加えて薬局経営もこれまでとは異なり、右肩上がりではなくなってきた。そのため患者や地域住民本位の経営を行うことができれば、経営を維持することが困難になる。</p> <p>さらに、わが国でも医療介護分野においてデジタル化の波が急速に押し寄せている。待ったなしの人口減少社会が到来する状況下においては、デジタルをいかに有効に活用し、医療や介護の質を上げ、経営の安定化にもつなげることができるかが大きな課題解決につながることになる。デジタル化やAIの進展は、医療介護分野へ異業種企業の参入を可能にするでもである。すでに米国ではグーグルやアップル、アマゾンなどさまざまな巨大デジタル企業が医療関連市場参入し、制度の壁を乗り越え医療介護分野に</p>					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

<p>多大な影響を及ぼすことが予想されている。わが国でも同様の動きが加速されることが予想される。</p> <p>以上のことから授業では今後、すでに示された政策や新たな動きがどのような方向に向かい、医療・介護施設、薬局がどのように変化することになる、あるいは医療・介護施設に代わる新たな施設が生まれている実例などを提示し、考察する。その際、場合によっては関連する政策や事業に詳しい専門家をゲスト講師陣として招き、今後の展望について講師とともに討議することで自身の学びを深くしてもらうことも検討する。</p>
<p><b>【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】</b></p>
<p>医療及び介護施設の経営や市場分析に関心があり、今後の変化を体系化することに関心を持っていることが望ましい。</p>
<p><b>【履修条件】</b></p>
<p>医療制度について基本的知識を有している。</p>
<p><b>【注意事項】</b></p>
<p>なし</p>



科目名					
医療流通のイノベーション					
担当教員					
遠藤 邦夫					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	2	専門	夏季集中 (8月～9月) ※別紙参照	集中	※別紙参照
授業の概要					
<p>長年に渡り成長を持続してきた日本の製薬企業はグローバルな競争環境下において厳しい経営を強いられている。新型コロナウイルスのワクチンや治療薬の開発では大きく出遅れてしまい海外の大手製薬企業との開発力の差を見せつけられた。さらに中国の製薬企業の開発力も侮れなくなっており、日本の製薬企業も厳しい戦いを強いられている。</p> <p>低分子医薬品において一定の成果を挙げてきた国内大手・中堅製薬企業各社は、低分子医薬品開発から抗体医薬、分子標的医薬品、遺伝子治療薬の開発へとモダリティ(治療手段)を重視した開発へと大きく舵を切ることになった。そのため研究開発のあり方を独自開発からオープンイノベーションへと大きく舵を切ることとなった。それに対して外資系製薬企業は国内製薬企業に先んじて時代変化に対応した研究開発体制を整え新薬を次々と市場に投入し、日本市場においてその存在感を高めている。そのような外資系企業の中には自社の都合に適合した流通に変えようとするところが出てきた。このような動きは、現時点ではどこまで拡大するかは不明であるが、今後の医療サプライチェーンのあり方に影響を及ぼすことになる。さらに新型コロナウイルス感染症の世界的規模での拡大により、これまでの世界規模での医療サプライチェーンのあり方も経済安全保障の観点から早期に見直しを行う必要が急務となった。</p> <p>一方、20世紀の製薬・医薬品卸業界のビジネスモデルは、医療提供体制や医薬品使用のあり方、薬価制度などが大きく変化している状況下で、見直しを迫られている。そのため21世紀の業界の事業のあり方は、その時代にふさわしいプレーヤーによって新たな市場が形成されることになる。医療サプライチェーンにおける主要プレーヤーとして医薬品卸が挙げられるものの、このままではデジタル治療の進展やスペシャリティ医薬品の急増などにより、新規に参入する企業が医薬品卸に代わってその存在感を高めることも予想される。それだけではなく新たな勢力が台頭し、医療流通市場の勢力図を大きく塗り替えてしまいかねない。</p> <p>また、日本においても多くのデジタル関連企業がヘルスケア事業にさまざまな形で乗り出してきている。それだけ異業種企業はヘルスケアに関する事業を有望視している。だが、それらの企業の多くは医薬品卸との関係が希薄である。しかしながら医薬品卸が持ち合わせていない異業種企業のデジタル技術は、医薬品卸各社が将来の経営体質強化のために構築しようとしているヘルスケアプラットフォーム構築におい</p>					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

<p>て不可欠な存在となっている。そのため大手医薬品卸はさまざまなデジタル企業に対して提携や資金提供などを行い事業化に向けて動き出している。</p> <p>授業では、日本の医薬品及び医療機器等企業の変革状況、さらにはそのような状況下で医薬品卸が事業を持続するためにどのような経営を展開しているかということについて実状を踏まえて講義する。加えてそのことを補完するために関連する企業経営者もしくは幹部を招いて討議し、その過程で自身の学びを深くしてもらいたい。</p>
<p><b>【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】</b></p>
<p>医薬品サプライチェーンやデジタル治療などヘルスケアの幅広い分野に平素から関心を持っている、あるいはすでにこのような分野に関わっていて問題意識を持っていることが望ましい。</p>
<p><b>【履修条件】</b></p>
<p>なし</p>
<p><b>【注意事項】</b></p>
<p>なし</p>

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
社会イノベーション					
担当教員					
露木 真也子					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	2	専門	第5クォーター (4月～6月)	水曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>社会を変える社会イノベーションの取り組みやその担い手である社会起業家は、決して特殊な成功事例や歴史的英雄のような人物のことではない。身近な出来事から社会的課題に気づき、ユニークな視点から解決の糸口となるアイデアを発想し、持続可能な事業モデルを構築する。生み出された新たな事業モデルはどのように広まっていくのか。「アショカ」を始めとした代表的な支援機関による社会起業家の概念定義、国内外の社会イノベーション・社会起業家研究の系譜、イノベーション普及論の観点からの事例研究等について講義するとともに、第一線で活躍する社会起業家をゲスト講師に招く機会を設け、社会イノベーションおよび社会起業(家)について理論と実践の両面から理解を深める。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>本講義は座学中心であるが、知識と実践の両面から社会イノベーションへの理解を深める趣旨であるため、自身の経験や興味関心をもとに、主体的に事前学習・復習・授業参加できることが望ましい。</p> <p>※ゲスト講師調整の都合により、授業計画に記載した講義内容の順番とゲスト講義日程は変更となる可能性がある。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
特別研究B(IoT 社会のビジネス創造)					
担当教員					
土本 康生					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	2	専門	第5クォーター (4月～6月)	土曜	1・2限(09:00-12:10)
授業の概要					
<p>本授業では、IoT(Internet of Things)が何であるのか、その基本的な考え方を理解することを第一の目的とする。技術的な細部に踏み込みすぎないようにしつつ、経営者やビジネスを創造する立場の者が知っておくべき基礎的な技術についても学ぶ。その上で、現在提供されている IoT を活用したサービスを調査し、その実装や実現方法をイメージしながら、新たな IoT サービスを考案し、発表してもらう。</p> <p>教科書は使用せず、シラバスに記載された参考文献や授業内で提示する資料・動画を用いて、IoT の全体像をつかんでもらう。参考文献の購入は必須ではないが、図書館を利用するなどして、可能な限り目を通すことを推奨する。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問や疑問、意見の提示など、授業に積極的に関与してくれることを期待します。</li> <li>● 授業資料の配布や書連絡は、Microsoft Teams を利用します。</li> <li>● 授業内でインターネットを利用した情報検索、情報の整理を行うこともあります。可能であればノートコンピュータを持参してください。タブレットやスマートフォンの利用も可能ですが、作業効率の観点からノートコンピュータの利用を推奨します。</li> </ul>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
特別研究 C(経営のリスクマネジメント)					
担当教員					
七田 良彦					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	2	専門	第5クォーター (4月～6月)	木曜	6・7限(18:30-21:30)
授業の概要					
<p>企業経営に必要とされるリスクマネジメント知識の習得とその活用に関わる意思決定の在り方等を学習する。事業会社を取り巻く様々なリスクへの対処、新規案件の投資判断等、に必要とされるリスクマネジメントリテラシー、財務リテラシー等を様々な実務事例(ケーススタディ等)を通じて習得することを目指す。講師の実務体験に基づいた、国内外における各事業にて対応した様々なリスク(金融危機、通貨危機、流動性危機、コンプライアンス事案にかかわる危機等)や国内外における新規事業の立ち上げの事例紹介等を通じ、リスクマネジメントの実務等を学習することが特徴である。一般的にこれらの事業は、大企業の経営幹部が意思決定の際に必要な経営リスクマネジメント分析と考えられるが、中小企業やベンチャー企業等の経営人材にこそ習得してもらいたい科目である。具体的な事業案件(ケース事案、含む様々な日経新聞の記事等)を元に、毎回、様々な意見交換やグループワーク等を行う。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>基礎科目におけるアカウティングやファイナンスの知識を活用するので、関連する科目の履修が望ましい。講義の内容や講義内で紹介する日経新聞等の経済記事を通じ、世の中の経済現象(含む身の回りの出来事等)を「我が事」として理解し、企業を取り巻く様々なリスクに関わる知識(見える化ほか)を学び、企業経営を継続的に実行できる経営力を体得する事を目指す。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
特別研究 D(マネジメントアカウンティング)					
担当教員					
小川 琢之					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	夏季集中 (8月～9月) ※別紙参照	集中	※別紙参照
授業の概要					
<p>アカウンティングの基礎を学んだ履修者が、マネジメントアカウンティングのツールを活用し数値を見て会社の経営に活かすことを学ぶ。</p> <p>見るべき数値が業種や事業のビジネスモデルにより異なること、事業のビジネスモデルとリスクを理解し事業に則した数値管理の手法を適用していくこと、数値管理がもたらすメリットとデメリット、財務諸表から見える経営課題が業種によって異なること、等を実例を踏まえ学ぶ。</p> <p>コース終了時に経営を数字と結びつけて見る力がついていくことを目指す。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>基礎科目におけるアカウンティングの単位を取得し、マネジメントにアカウンティングを活かすことに興味を持っている学生が対象。授業への積極的な参加、発言、質問を期待する。</p> <p>本講義の内容や講義内で紹介する事例を通じ、財務数値・非財務数値で経営を見ることが経営に資することを学び、修了後の実務に活かせる知見の習得を目指す。中間課題ではケーススタディー問題の提出が、期末時には受講者が自由にテーマを決める期末レポートの提出が、求められる。自身の卒業レポートに関連させて、マネジメントアカウンティングの手法を用い、分析・研究を深めることも可能。</p>					
【履修条件】					
履修必須科目:基礎科目アカウンティング(但し、アカウンティングを本業としている等により基礎レベルのアカウンティングは十分習得しているため受講しなかった場合は相談の上可)					
【注意事項】					
内容の習得のため、本科生同様に、宿題、課題の提出をお願いしたい。					

令和7年度 前期 科目等履修生開講科目 概要及び備考

科目名					
特別研究 E(ファイナンス演習)					
担当教員					
七田 良彦					
配当年次	単位数	科目区分	開講時期	曜日	時限
2	1	専門	夏季集中 (8月～9月) ※別紙参照	集中	※別紙参照
授業の概要					
<p>アカウンティング、ファイナンス等の基礎を学んだ履修者が、様々な企業評価の手法(資本コスト、WACC,CAPM,DCF 法、マルチプル法等)を実践的に学び、企業経営の様々な実務(新規投資の評価、企業買収における相手先企業の評価等)にファイナンス関連の知識を活用できる段階に到達することを目指します。</p>					
【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】					
<p>基礎科目におけるアカウンティングやファイナンスの単位を取得し、企業経営にアカウンティングやファイナンスの知識を活かすことに興味を持っている学生が対象。授業への積極的な参加、発言、質問、そして計算課題(エクセル利用)の予習・復習等を確認を行うことを期待する。本講義の内容や講義内で紹介する業種、事例を通じ、数字、特に会計数値で経営を見ることが経営に資することを学び、修了後の実務に活かせる知見の習得を目指す。</p>					
【履修条件】					
なし					
【注意事項】					
なし					

科目名 / Course Name					
特別研究 F2(スタンフォード大学連携科目2) Special Lecture - G(Stanford Hiroshima Collaboration Program on Entrepreneurship - 2)					
担当教員 / Teacher					
村木 / Muraki					
配当年次 /Grade	単位数 Unit	オンライン / Online	開講時期 / Date	曜日 /Day	時限 / Period
2年	1	オンライン のみ Online only	第6クォーター 隔週後半 (6月~8月) June- August	土曜 /Sat	1・2 限(09:00-12:10)
授業の概要 / About the course					
<p>Course Language: This course (SHCPE-2) will be taught in both Japanese and English. Lectures will be in English and translated into Japanese as necessary and appropriate. The course website on Canvas will be hosted in English. Reading assignments will be in English. Discussion among students may be in either Japanese or English. Discussion Board postings, Reflective Journal, and Final Project may be completed in either Japanese or English.</p> <p>The topics to be covered in each class in 2025 have not yet been determined, but for your reference, the topics that were covered in 2024 are listed below. Guest speakers will be invited to each class depending on the theme.</p> <p>[The topics that were covered in 2024]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●”Heartfulness” as a Foundation of Communication In this lesson, we will learn basic principles that are essential for individual and organizational well-being, leadership, and communication. By practicing the art of seeing others deeply and offering presence we will see how the power of connectedness enhances well-being. The Classroom Session combines lecture with experiential exercises to illustrate each topic.</li> <li>●Strategic Communication and the Pyramid Principle Successful leaders communicate strategically, analyzing their situation, their audience’s concerns, and their goals/intent before drafting a message. The</li> </ul>					



Classroom Session will use a short case to provide a simple context for exploring fundamental communication strategy. The case will also offer context for hands-on practice in applying the “pyramid principle” to organize messages.

●Making Difficult Conversations Productive

Having difficult conversations can seem risky but doing it well can yield productive results. In this lesson, students will learn and practice several different techniques for navigating challenging conversations and achieving communication results while maintaining positive relationships.

**【備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)】 / Note**

Course Website: SHCPE-2 takes place on an online platform called Canvas.

Virtual Classroom Sessions: All virtual Classroom Sessions take place using Zoom. To participate, students will need a computer with a camera, headphone/speaker, microphone, and high-speed internet connection.

Discussion Board: Students are expected to contribute to Discussion Boards on the Canvas website. For each lesson, students are required to write a minimum of 3 posts.

**【履修条件】 / Condition**

2nd year

**【注意事項】 / Notice**

This course, Stanford Hiroshima Collaboration Program on Entrepreneurship 2, is conducted mainly in English. Also, this course is conducted online (via Zoom).